



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年2月11日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



欽ちゃんの「遺言」って？ 萩本欽一さん 11日(日)=1、3面



時代を超えてテレビを変えてきた萩本欽一さん(82)＝写真＝は、今の笑いやテレビ番組をどのように見ているのでしょうか。今はテレビ出演を控えています。その理由は「欽ちゃん」ではなく「萩本さん」と呼ばれるようになったからだと明かします。

バラエティー番組などで数々の笑いを届けてきた欽ちゃんは「みんなから『欽ちゃんらしいね』と言われることが一番うれしい」と

話し、笑みを浮かべます。そして幾つになっても新しいことに挑戦する姿勢は変わりません。若い学生たちに囲まれながら大学生活を送ったり、ユーチューブの配信にも挑戦したりしてきました。

池上彰さんとの対談では、台本についての考え方や、スタッフとの関係性などが話題となり盛り上がりました。そして欽ちゃんはある「遺言」を池上さんに託したのです。その内容とは――。



紛糾するNTT法

11日(日)＝総合面

40年前、日本電信電話公社(電電公社)の民営化に伴って制定されたNTT法のあり方を巡り、議論が紛糾しています。全国の電話回線網などを電電公社から引き継いで誕生したNTTを規制する法律ですが、NTTは

「時代遅れ」だと撤廃を求めています。一方、KDDIなどNTTと競合する通信大手は法律廃止に猛反対しています。NTT法とはどんな法律で、なぜもめているのか。なるほどりが分かりやすく解説します。



NTT法を巡る総務省の有識者会議に出席後、記者団の取材に応じる(右から)KDDI高橋誠社長、ソフトバンク宮川潤一社長、楽天モバイル三木谷浩史会長＝2023年12月13日撮影



行方不明者を捜索する自衛隊員＝石川県津市仁江町で2024年1月11日

論点

能登半島地震で教訓は生かされたか

最大震度7を観測した能登半島地震は、犠牲者が240人を超える大災害となり、各地で道路が寸断された。え、建物や人の被害

状況の把握に時間がかかり、孤立した集落へのアクセスも遅れが目立ちました。一方で、避難の過程でコミュニケーションがバラバラとなり、避

難先で孤独感を募らせている住民も多くいます。情報収集、コミュニケーションと復興、子どものケアの3点に焦点をあてて、識者に聞きました。

14日(水)＝オピニオン面

特集 ワイド

専門家に聞く春闘「賃上げこそ生きる道」

13日(火)＝夕刊2面



「賃金を上げて攻められないと、企業はもう生き残れません」。労働問題に詳しい山田久・法政大学院教授＝写真＝はそう話します。世界の経済構造がここ数年で一変したからだといっています。大幅な賃上げに

つながった昨年の春闘に続き、今年の春闘もこの流れが維持されるのでしょうか。かつてないほど関心が高まる中、賃金を巡って私たちの足元で何が起きているかを尋ねました。



毎日新聞

竹橋の窓辺から
編集後記

Diversity(多様性)、Equity(公平性)、Inclusion(包括性)のある社会を目指すべく、毎日新聞社は社内での取り組みを決めました。社内が変化する中で、読者のみなさまにより良いニュースをお届けできるよう努めます。「毎日新聞DEI宣言」はQRからご覧ください。(長尾真央)